

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 622 2019年 8月号 1部60円 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7 TEL 03(3404)7661 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

2019年原水禁世界大会へ向けて

生きていくうちに核兵器のない世界を

原水禁世界大会長崎へ

一昨年、国連会議で核兵器禁止条約を採択 広島、長崎に原爆が投下されてから74年が経ちます。被爆者の平均年齢は82歳をこえました。

75周年で核不拡散条約(NPT)発効50年のNPT再検討会議で、非核平和の世界のゆくえに決定的な影響を及ぼす機会がやってきます。

唯一の被爆国日本、条約をめぐる状況 一方で、安倍政権は唯一の被爆国の政府であるにもかかわらず、アメリカの「核の傘」の下で、改憲、軍拡、「戦争する国づくり」を進め、核兵器禁止条約に反対し続けています。



▲2018年平和行進 ▼2017年長崎大会



「核兵器と人類は共存できない」、「生きていくうちに核兵器のない世界を」これは被爆者の切実な願いです。この願いをかなえるために、被爆者は長年にわたり、心や体に原爆の深い傷を持ちながらも核兵器をなくそうと訴え続けてきました。

原水禁世界大会は、核兵器の廃絶を求める政府、国際機関、自治体などの公的機関、市民社会、草の根の運動が被爆者とともに、共同を築くものです。海外でもすでに、核兵器禁止を主導する政府、核実験被害者、NGOや草の根団体の中に2019年世界大会への強い期待が生れていま

2019年世界大会成功へ、長崎大会へ代表参加 2019年世界大会はこれらの運動とも連帯し、全国の8割を占める非核自治体を含め、さらに広範な共同と連帯を展覧させる大会となります。



放射線技師 小椋美保

今回、原水禁禁止世界大会への参加という貴重な経験を頂戴しました。

長崎に行きつてより多くの被爆者の方々からお話を聞いて交流し、実際に現場を見て核兵器の廃絶や被爆者救援について改めて考え、大会に参加して感じたことを多くの人に広めていきたいと思えます。



事務 野村 彩

時間が経つにつれいろんなことが忘れられていく...と戦争体験者の方は仰います。 実際「原爆はいつ、どこに落とされたの?終戦はいつ?」という質問を二十代の友人から受けたとき、私は一瞬言葉に詰まってしまいました。

戦後生まれの私達はこの幸福な時代が人々のた

千駄の萱

今年八月は被爆七十四年、原水禁世界大会六十四年、そして核兵器禁止条約が国連で採択されて二年になる▼核兵器禁止条約は五十七ヶ国が批准すれば発効される。この二年で着実に増え、現在世界の七十七ヶ国が署名し、二十三ヶ国が批准した。しかし日本政府は背を向けたまま▼発効までの道は確かに時間がかかる。まず「条約」が国連で採択されると、これを各国が持ち帰り、政府として認めると「署名」することになる。次にこれを国会で論議し、条約を受け入れようと決めることが「批准」するということ。このような手続きが必要なので一定の時間がかかるのは仕方がない事だ。しかし七十七ヶ国が署名をしている現在、批准する国が五十を越えるのは間違いない▼日本政府は署名もしていない。だから国会に諮ることもしない。「非保有国と保有国との橋渡し役」となると言っているが、架ける橋はどちらが歩み寄るようにしようとしているのか。唯一の戦争被爆国として恥ずかしいことだ▼今年も原水禁世界大会に青年職員が参加する。被爆者の思いを受け止め、日本と世界の動きをしっかり見てきてほしい。(み)